

JENESYS2025 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラムの記録 (テーマ：日本文化・能)

1. プログラム概要

【目的・概要】

過去に JENESYS 事業に参加した ASEAN 地域の同窓生を対象に、日本の代表的な伝統芸能「能」をテーマとしたオンラインプログラムを実施しました。ミニレクチャーや実演、ワークショップを通じて「能」を体験し、後半では参加者間交流として、複数のグループで文化体験の感想や訪日での経験などを共有しました。プログラムを通じて親日・知日度を高め、同窓生同士の継続的な交流と連携を促進しました。

【参加者】ASEAN 諸国の同窓生 合計 42 名

(内訳) インドネシア 3名、カンボジア 1名、シンガポール 2名、タイ 1名、東ティモール 6名、フィリピン 13名、ブルネイ 3名、ベトナム 2名、マレーシア 6名、ミャンマー 5名

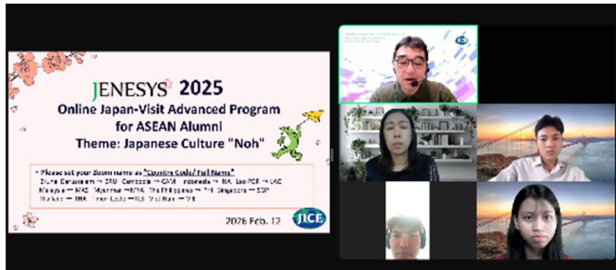

【日程】

■ オンライン訪日プログラム：2026年2月12日（木曜日）

1. 開会
2. 【日本文化体験】「能」
講師：喜多流能楽師 塩津 圭介 氏
3. 質疑応答
4. 記念撮影
5. 【参加者間交流】グループディスカッション
テーマ：① 日本文化体験“能”の感想や気づきの共有
② 日本文化の体験や興味のある日本文化の共有
6. 【同窓生発表】
7. 閉会

2. 記録写真

オンライン訪日プログラム

	
<p>【開会】</p>	<p>【日本文化体験】能（ミニレクチャー）</p>

	
<p>【日本文化体験】能 (ワークショップ：泣いている型)</p>	<p>【日本文化体験】能 (クイズ)</p>
	
<p>【質疑応答】</p>	<p>【記念撮影】</p>
	
<p>【参加者間交流】グループディスカッション</p>	<p>【同窓生発表】</p>

3. 参加者から寄せられた質問・関心事項 (抜粋)

◆ 【文化体験】能について

- ・ 「能」と「歌舞伎」の違いは何ですか。どういう点で異なりますか。
- ・ 今舞っている能は、昔からある舞い方でしょうか。当時と同じなのでしょうか。
- ・ 若い方への継承は難しいですか。
- ・ 能の舞がとてもゆっくりである印象を受けましたが、それには何か意味があるのでしょうか。

4. 参加者の感想 (抜粋)

◆ マレーシア 大学生

講師の方からたくさんの気づきを得ました。現在、日本文化についての情報を得ることは難しくはありませんが、日本に住んでいる専門の方からの講義を受けることで、より実践的な知識を得ることができました。ディスカッション部分は日本文化理解だけでなく、他の国々からの参加者の意見も興味深かったです。

◆ ブルネイ 大学生

「能」について、これまで聞いたことがなかったので、今回の内容は、私にとって非常に貴重な学びとなりました。最も古い主要な舞台演劇が現代にあることを楽しく、そして興味深く視聴しました。また、能文化を広げていこうとする講師の方の熱意と努力も伝わってきました。

◆ ミャンマー 高校生

能にある情感について深い理解を得ることができました。とてもスリリングで情景の広大さを感じました。更に能の演目を通じて、日本文化と歴史についても同時に学ぶことができました。今回の体験により、日本への関心が大きく高まり、日本文化について更に学びたいと思うようになりました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

ASEAN の方々の日本文化への興味関心が伺えてこちらもありがたかったです。
また日本でお目にかかれるとうれしいです

6. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等



2026年2月12日（Instagram）

フィリピン 大学生

今日は、喜多流能楽師の塩津圭介さんと囃子方による「屋島の戦い」という舞台の短い一部分を鑑賞しました。鑑賞の前に、舞台や演者の役割についての紹介もありました。能は、日本最古の主要な舞台芸術であり、ユネスコの無形文化遺産として認められています。能の演目は、神々や亡くなった武士の霊などの、精神的なテーマを扱うことが多くあります。もともとは貴族階級のために演じられていました。それに対して、歌舞伎は庶民のために発展してきました。もし演者が仮面をつけていれば、それは能です。能の公演はゆっくりとした動きで、非常に様式化されています。動きは最小限で象徴的で、例えば演者がゆっくりと舞台を回ること、遠くへ旅することを表現したりしています。舞台がシンプルのため、微妙な動きで感情や情景を表現するには高い技術が必要です。時とともに、観客やその認識は変わってきましたが、能の公演自体は600年前と全く同じ姿を保っています。この伝統芸能を維持することは大変ですが、SNS やワークショップ、教育活動などさまざまな努力がなされています。

JENESYS2025 Online Japan-Visit Advanced Program for ASEAN Alumni (Noh, 能)

12 February 2026 (Thursday)
Lecturer: Mr. SHIOTSU Keisuke

Today, I had the chance to learn about Noh (能), one of Japan's oldest and most elegant performing arts, with a history of over 650 years.

Noh is a traditional Japanese musical drama that combines acting, dance, and chanting, accompanied by musical instruments in the background. What makes it especially unique is the use of masks, which give the performance a mysterious and deeply symbolic atmosphere.

The main actor, known as the shite, often plays roles such as ghosts, spirits, or deities. Meanwhile, the supporting actor, the waki, usually portrays living human characters.

A really interesting fun fact: these roles are often passed down through family lineages. If you are born into a shite family, you will play shite roles, and the same goes for waki families.

Noh performances take place on an open-style wooden stage inside a specialized theatre called a Nohgaku-do. The stage is traditionally built entirely from cypress wood, featuring a painted pine tree backdrop and a bridge-like walkway called the hashigakari. Each pillar even has its own name, helping guide actors since masks restrict their vision.

It is such a delicate and highly disciplined art form. There is even strict etiquette when putting on the mask: you must only touch it by the ear strings and say, "Your face is going to be mine."

If you have never heard of Noh before, you might be more familiar with Kabuki since it appeared a bit later. Kabuki is often compared to Noh, but while Noh uses masks, Kabuki is known for its bold, heavy makeup.

As a Malaysian, I found it fascinating how Noh also shares similarities with some of our traditional performing arts, such as Mak Yong, Teater Bangsawan, Wayang Kulit, and even Dikir Barat. They are not exactly the same, but they all involve storytelling through acting, music, dance, and song.

Learning about Japanese culture while being able to relate it back to my own heritage made this session even more meaningful. 🇯🇵 🇲🇾

#jenesys_asean #jenesys2025 #jenesysalumni #jice_exchange #noh



2026年2月12日 (Facebook)

マレーシア 大学生

今日私は日本最古で最も優雅な伝統芸能の一つである能について学ぶ機会がありました。650年以上の歴史を持つ能は、演技、舞踊、地謡に加え、楽器の生演奏が一体となった日本の伝統的な音楽劇です。特にユニークなのは、仮面の使用で、それが神秘的で深みある象徴的な雰囲気を感じます。主役の演者であるシテは、しばしば幽霊や精霊、神などの役を演じ、一方で脇役のワキは、生身の人間のキャラクターを描きます。とても興味深いことに、これらの役は家系で受け継がれることが多く、シテの家に生まれた人はシテの役を、ワキの家に生まれた人はワキの役を演じます。能の舞台は、能楽堂と呼ばれる専用の開放的な木製舞台で行われます。伝統的な舞台はすべてヒノキで作られ、松の絵が描かれた背景や、橋掛りと呼ばれる橋のような歩道もあります。各柱には名前があり、仮面によって視界が制限される演者を導く役割も果たします。これは非常に繊細で、高い規律を要する芸術で、仮面をつけるときも、耳の紐の位置だけに触れるという厳格な作法があります。もし能を観たことがなければ、少し後に登場した歌舞伎の方が馴染みがあるかもしれません。歌舞伎は能とよく比較されますが、能が仮面を使うのに対し、歌舞伎はその大胆で重厚なメイクで知られています。

マレーシア人として、能が私の国の伝統芸能とも共通点を持つことが興味深いと感じました。全く同じではありませんが、どれも演技、音楽、舞踊、歌を通して物語を伝えるという点で共通しています。日本の文化を学びながら、自分のルーツに結びつけられたことで、このセッションはさらに意義深いものになりました。

	<p>2026年2月12日(Instagram) インドネシア 社会人</p> <p>JENESYS 同窓会プログラムを通じて、興味深い能の講義と公演を鑑賞してきました。能には 650年の歴史があり、一般大衆に広まった歌舞伎とは異なり、貴族階級のための儀式として始まったことを知りました。舞台上のゆっくりとした丁寧な動きは、ただの演出ではなく、非常にシンプルな構造をしている舞台の上で、長距離を歩く様子や時間の経過を表現するための熟練の技法であるということを知り、驚きました。この日本文化への深い探求をしてくださった塩津圭介氏に心から感謝します。</p>
--	--

7. 同窓生発表

ディスカッションテーマ：

- ① 日本文化体験「能」の感想や気づきの共有、② 日本文化の体験や興味のある日本文化の共有

<p>発表者（フィリピン）</p>
<p>テーマ①では、「能」は日本の伝統文化の好例だと感じました。 今回このプログラムに参加して、「能」に限らず、他の伝統文化にも続けて接していきたいと思いました。</p> <p>テーマ②では、JENESYS で来日した際、岐阜県で体験した茶道体験の話をしました。濃茶の苦さが衝撃的だったのが印象に残っています。又、福井県で日本酒の酒造り体験ができたことが、貴重な体験だったと覚えています。</p>
<p>発表者（タイ）</p>
<p>テーマ①については、私は「能」を初めて見ました。能は舞踊のみの伝統文化だと思っていたので、音楽が伴っているのを見て驚きました。公演を大変興味深く鑑賞しました。</p> <p>テーマ②について、私が初めての日本文化へ触れたのは、マンガやアニメ『ドラえもん』からでした。大学での副専攻が日本語でしたが、あまり上手には話せません。2001年に初めて東京・宮崎を訪問しました。その際、日本とタイには文化的共通点があると思いました。</p>

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）